

150)

妊娠貧血の漢方療法と微量元素

国立京都病院 産婦人科

○田中 熟

目的 わたしどもは、妊娠貧血の治療に漢方薬を用いて、その治療効果を検討するとともに漢方薬中の微量元素濃度を測定し、興味ある知見を得たので報告する。

対象 A群：当帰芍薬散10g/日＋紅参末4g/日投与，38例，B群：竜胆瀉肝湯7.5g/日投与，17例，C群：加味帰脾湯7.5g/日投与，35例，計90例について，治療前後の血色素量，漢方薬一日投与量中の微量元素濃度の測定を行った。

結果 投与前の血色素量(g/dl)の平均はA群：10.48 ± 0.19 (S. D.)，B群：10.34 ± 0.44，C群：10.35 ± 0.25 であり各群の間に差はみられなかった。投与4週間後のHb量の平均は，A群：11.15 ± 1.21 (S. D.)，B群：10.78 ± 1.31，C群：10.41 ± 1.04 であり，A群とC群の間に有意差を認めた ($p < 0.01$)。分娩時出血量(g)の平均はA群：376.6，B群：319.7，C群：341.7 であり，新生児の生理的体重減少率(%)の平均は，A群：5.8，B群：6.3，C群：5.9 であり，各群の間に差は見られなかった。母乳栄養率(母乳摂取量/全栄養摂取量×100%)の平均は，A群：68.3，B群：63.7，C群：64.6 であり，A群がやや高い傾向にあった。各群の漢方薬1日量に含まれる微量元素(銅，鉄，カルシウム，亜鉛)量(μg)は，A群銅：62.16，鉄：248.4，Ca：14355，Zn：98.7，B群銅：56.33，鉄：654，Ca：9075，Zn：54.6，C群銅：29.25，鉄：25.5，Ca：6600，Zn：20.33 であり，各漢方薬投与後の血色素量の高い順に(A群>B群>C群)，銅，カルシウム，および亜鉛の含量が多くなっていることがわかった。副作用は，B群において1例食欲不振がみられたが，食直後に服用することにより軽快した。

考察 妊娠貧血の治療に対しては，漢方薬中の鉄よりもむしろ銅，カルシウムおよび亜鉛が，重要な役割を果たしていることが示唆される。

結論 妊娠貧血の漢方療法として，当帰芍薬散と紅参末の併用投与が最も有効であり，治療効果を高めるために，漢方薬中の銅，カルシウム，亜鉛含有量に注意しなければならないことがわかった。今後例数を重ね，更に検討していきたいと考える。